

シリアのアサド大統領インタビューに、まず注目せよ そこから、いよいよ佳境の、「ノルド・ストリーム」「プーチン逮捕状」へ

Greatchain

May 19, 2023

これは現在、全文が〈Sputnik 日本〉に、「〈第三次世界大戦はすでに進行中〉スプートニクとアサド大統領の特別インタビューが実現」というタイトルで翻訳されている。これは消される前にぜひ読んでいただきたい。このインタビューは非常によいタイミングで行われた。ロシア政府のソースを疑う人も、これを読んで、アサド大統領がロシアに媚びてウソをついていると思う人はいないだろう。彼はシリアの立場から論じているが、彼とクレムリンは全く同じ理性的立場に立っている。今、我々の世界が理性を失い始めているから、これは我々に貴重なものとして響くであろう。

その前に、「ノルド・ストリーム」パイプライン**爆破**のニュースが、世界的にこれほど騒がれているのに、わが国の主流メディアは全く報じないという、異常な事態に触れておきたい。これは、ジャーナリストなら知らない者のいない独立ジャーナリスト Seymour Hersh の暴露によって明らかになった、アメリカ（バイデン政権）による犯罪である。これについては一時、金持ちのウクライナ人による犯罪という説が流れたが、これはアメリカが恥を隠すためのフェイクだったという、ハーシュを含めた多数者からの確かな説に破られ、アメリカの犯罪は恥の上塗りをするようになった。

これは一国が他国のインフラストラクチャを破壊し、その被害は周辺の他国にまで及ぶわけだから、個人の資産の破壊でなく、公共の交通機関の破壊のようなもので、わが国の新幹線が、次々と破壊されているのに、メディアがそれを庇って隠しているようなものである。彼らの精神の異常さは、その深刻さとともに、9.11 事件隠しに似ている。バイデンは、ロシアは敵国だから、敵国を破壊するのは当然だと言った。「そんなことは〈根も葉もない〉うわさだ」とも言った。そしてわが国首相も、アメリカの判断に従うと言った。これが、この狂気の世界の恐ろしさである。「シーモア・ハーシュという人は、ベトナム戦争で真実を暴いた、すごく尊敬されている人と思っていましたが、そうではなかったのですか？」——「ああ、あの男はフェイクだったんだよ」——このようにして我々は、犯罪を犯罪とも思わぬ犯罪国家に仕立てられていく。

実は、シーモア・ハーシュ自身が、自分に向けられるであろう憎悪のまなざしを予見して、アメリカの狂気をこんなふうに分した：――

(RT) プーチンへの憎悪のために、アメリカの高官たちは「愚かなまねをしている」――シーモア・ハーシュ

「ノルド・ストリーム」破壊物語を破ってみせた、このジャーナリストは、アメリカの指導者たちが、いまだに冷戦を戦っているように振舞っている、と主張した。

伝説的調査ジャーナリスト Seymour Hersh は、日曜日、アメリカの高官たちの外交政策の「完全な白痴性」complete idiocy と判断できるものを論じて言った。彼は中国の国営テレビに対し、彼らはロシア大統領ウラジミール・プーチンへの「憎悪に狂っている」consumed by hatred ので、愚かな決定を次々とやらかしている。・・・

その「愚かな決定」が、昨夜から今朝の NHK と新聞で流された：――

(RT) アメリカは刑事裁判で「精神分裂症」を病んでいる ――ロシア

ロシア大統領ウラジミール・プーチンに対する国際刑事裁判所の「逮捕状」への、ワシントンの反応は、精神分裂症 schizoprenic のようだ、とモスクワの外交ミッションは言っている。大使館はさらに加えて、アメリカは、米人を含む事件の場合には、この裁判所に対して非協力的なのに、ロシアに関しては、その最新の裁定を即刻、受け入れたと言った。

金曜日、Telegram に発表された投書で、ロシア大使館は、アメリカの立場は「鈍った精神分裂症のようだ」と言った。この投書は事実を強調しており、アメリカの高官たちは、ICC（国際刑事裁判所）の「子どもの権利」担当委員 Maria Lvova-Belova が、プーチンとロシアの責任を問うたことを讃えているが、アメリカはこの法廷には決して従わないのだと強調した。

「ワシントンは自分の地政学的利益のために、ICC の乱発する、かつて例のない、法的なハメ外しを支持しているが、ロシアもアメリカのように、ICC の法的裁きを認めていないことを十分に知っているのだ」と、大使館は言い、つけ加えて、ICC の、2020 年におけるアメリカの、アフガニスタンでの戦争犯罪と言われるものの調査の試みは、当時の検事だった Fatou Bensouda への制裁に終わったのだ、と述べた。

アメリカ大統領ジョー・バイデンは、金曜日、記者たちに対し、自分は ICC の、ロシアの同役に対する裁定は「正しかった」と信じている、なぜならプーチンは「明らかに戦争犯罪を犯したのだから」と言った。しかし彼は急いでつけ加え、この法廷は、「我々のどちらも国際的に認めていないのだ」と言った。

アメリカは 2002 年に ICC を離脱し、どんなアメリカ人でも同盟国人でも、彼らがこの法廷によって拘束された場合には、軍事力を含めて、解放されるべきことを、「あらゆる必要で適切な手段を用いて」法制化する法案を通過させた。

ICC の最近の動きと、プーチンと Lvova-Beleva の、ウクライナからロシアへ子供を「不法に連行した」ことに対する責任の主張について、クレムリンの報道官ドミートリ・ペスコフは、金曜日、「ロシアは他の多くの国家と同様、この法廷の裁判を認めていない」ことを明らかにした。

ペスコフは、この逮捕状は「無法極まる、受け入れられないもの」であり、「法的立場から完全に失効すべき」ものだと一蹴した。

アメリカとロシアの他にも、多くの他の国家が、ICC の裁判を認めていない——中国、インド、イスラエル、サウジアラビア、トルコを含めて。

【訳者 Greatchain 注】

ここに言われていることを信ずる限り——疑う理由はない——この「刑事裁判所」は世界の誰からも認められていない、いわばそれ自体が犯罪者であるような存在なのであれば、これをテレビや新聞で大きく報道すること自体が、非常識で、犯罪なのではないのか？（ジョー・バイデンの最後の一言で十分だろう。）責任者はどのように始末をつけるおつもりですか？

ちなみに「子供連れ去り」の常習犯はアメリカであり、これまでにどれだけここで、「消えた子ども」の記事を取り上げたか知れない。アメリカで「里子施設」と言えば、まず

それが疑われ、有名なジェフリー・エプスティーンの子どもセックスは、ほとんど公然と隠されたある島で行われる。プーチンのそれは、自分で言っている通り、子どもをナチスや過激派の集団から保護するためである。